

令和4年5月23日

富山県美術館 企画展ポスターの新しいデザイナーについて

富山県美術館では、企画展のポスター等を3年ごとに一人のデザイナーに担当をしていただいています。

このたび、企画展「富山県美術館開館5周年記念 ミロ展—日本を夢みて」（会期：2022年7月16日～9月4日）からの3年間のポスターデザインをグラフィック・デザイナーの永井裕明氏が担当することとなりました。

永井氏は、東京を拠点に国内外で活躍するグラフィック・デザイナー、アートディレクターです。当館が1985年より開催してきた「世界ポスタートリエナーレトヤマ（IPT）」でのIPT2009銀賞、IPT2012銅賞受賞とともに、昨年のIPT2021まで継続的に入選を果たしたポスターは、当館のコレクションにも多数含まれています。「ミロ展」のポスターでは、リズムカルな「MIR0」の文字が、当館のコレクションからの出品作である、ジュアン・ミロ《パイプを吸う男》と色彩で響きあい、夏から始まる本展への期待を高めます。

永井裕明 (Nagai Hiroaki)



1957年東京生まれ。東京都立工芸高等学校デザイン科卒業。ブラックファーストを経て1989年に自身の事務所N.G. inc.設立。広告デザインを中心に、ブランディング、CI・VI開発、書籍装丁、空間デザイン等を手掛ける。

東京造形大学教授（～2022年3月）、東京アートディレクターズクラブ（ADC）会員、日本グラフィックデザイナー協会（JAGDA）会員、東京タイポディレクターズクラブ（TDC）会員。富山県美術館が主催する「世界ポスタートリエナーレトヤマ（IPT）」銀賞（IPT2009）、銅賞（IPT2012）はじめ、国内外で

の受賞多数。

主な仕事として、佐川急便のCI・VIのブランディング開発及び広告デザイン、横浜ゴム「PRGR」「egg」「ADVAN」のグラフィック広告、いけばな草月のアートディレクション、DIC川村記念美術館をはじめとする展覧会広報ビジュアルや図録など。

▼永井氏の代表作品例

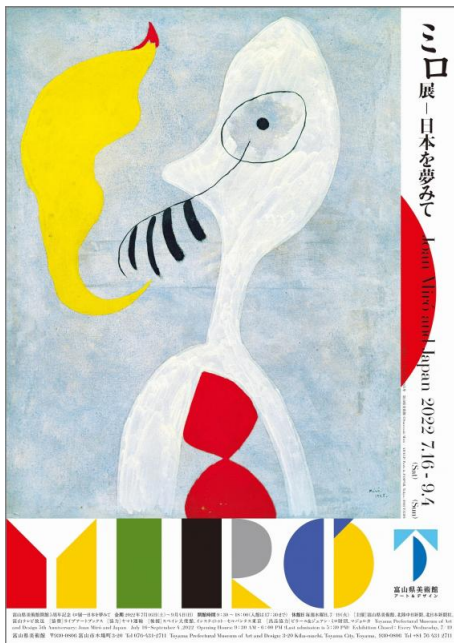


「Paul Klee」(2006)



「NUDIST」(2017)

「ミロ展」ポスターデザインについて（永井氏コメント）



アートとデザインの美術館として注目度の高い富山県美術館のメインビジュアルを担当させていただくことはとても光栄に感じています。

期待に応えられるべく真摯に取り組んでいきたいと思しますので、皆さん是非応援してください。

今回のミロ展に関しては、巡回展でありながらもTADらしさをどこに潜ませることができるかを考えました。開放感のあるスペースでミロの作品を鑑賞できるワクワク感を、「MIRO」の文字を単純化したエレメントで表現してみました。

ミロの作品は皆さん馴染みのある《パイプを吸う男》です。右側には日の丸がちょっとだけ顔を覗かせています。

MAKE
TOYAMA
STYLE
BEYOND CORONA, WITH US

